

No.	017	—	3021	事務事業名	市営住宅管理事業	細事務事業名		公的関与	7				
PLAN	課名	都市整備課	係名	建築住宅係	電話番号	089-964-4412	メールアドレス	tosiseibi@city.toon.ehime.jp					
	事業区分	施設の維持管理		事業運営方法	一部委託	実施計画	非該当	事業期間	年度 ~ 年度				
	総合計画	政策目標	第2章 安全で快適な社会基盤のまち		政策項目	2 良好な住環境づくりの推進		主要施策	(3)住宅の整備				
	事業の対象	住宅困窮者、市営住宅入居者				根拠法令	公営住宅法、東温市営住宅管理条例						
	事業の目的	最終的	入居者が安全で安心して暮らせる住宅を確保するとともに、住宅困窮者の解消を図ります。			今年度	市営住宅の適切な維持管理を行うことにより、入居者の生活環境を整えます。また、現年度住宅使用料に重点をおき、滞納者の解消に努めます。						
	活動内容	①	市営住宅の維持管理			④	市営住宅の維持管理入居・退去対応及び台帳整理						
		②	市営住宅使用料の徴収			⑤							
		③	市営住宅入居者からの苦情対応、生活指導										
	成果指標	指標名		計算式又は指標設定理由		単位	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	最終目標			
		市営住宅の維持管理状況		事業の性質上、目標設定不可		目標							
住宅使用料の収納状況		現年度住宅使用料の収納率の改善		%	目標 100	100	100	100					
市営住宅の入居状況		政策空家を除く市営住宅の入居戸数		戸	目標 291	290	289	267					
				実績	96	95							
				実績	284	289							
DO	予算費目	会計	一般会計		費目名	土木		費					
	直接事業費		平成 27 年度決算	平成 28 年度決算	平成 29 年度予算	備考							
		国・県支出金	0 千円	0 千円	0 千円	上記成果目標の最終目標値は、平成27年度に策定した「東温市市営住宅長寿命化計画」において、住宅供給必要戸数の検討を行ったもので、平成32年度時点を指しています。							
		地方債	0 千円	0 千円	0 千円								
		その他特定財源	20,832 千円	22,308 千円	23,447 千円								
		一般財源	0 千円	0 千円	0 千円								
	計(A)	20,832 千円	22,308 千円	23,447 千円									
	人件費(B)	正職員工数・経費	2.451 人	14,759 千円	0.894 人	5,332 千円	1.097 人	6,593 千円					
		臨時職員工数・経費	0.000 人	0 千円	0.000 人	0 千円	0.000 人	0 千円					
	全体事業費(A+B)		35,591 千円		27,640 千円		30,040 千円						
一次評価者	建築住宅係	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	2	効率性	4	今後の方向性	現状維持
項目	評価項目の説明 (一次評価者のコメント)												
必要性	高齢化及び独居老人の増加、経済不況、ひとり親家庭の増加により、住宅困窮者が増加し、市営住宅(公営住宅)のニーズは高く、必要とされています。												
有効性	国民年金受給高齢者等、低所得者の民間住宅への入居が困難な市民に対して、生活の本拠を提供し、有効な成果が上がっています。												
達成度	住宅の適切な維持管理を行うことができました。また、入居者からの連絡による修繕等についても早急に対応しました。現年度住宅使用料の収納率は前年度を下回り、成果を上げることができませんでした。												
効率性	競争入札により適切な価格での契約を行うと共に、軽作業等については、シルバー人材センターに委託することにより、低コスト化及び高齢化社会への対応も行っています。												
当面の課題	住宅の経年劣化による老朽化が著しく、適切な維持管理によっても年々維持管理費が増加しています。また、住宅使用料の滞納者は常習化の傾向にあるため、現年度使用料の納期限内納付を習慣化するよう滞納者に接することが必要です。												
改革計画	住宅の維持修繕を計画的に行い、住宅の長寿命化を図ります。住宅使用料の収納率を上げるため徴収計画を立て、根気よく滞納者に接し収納率向上を目指します。												
二次評価者	都市整備課長	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	2	効率性	4	今後の方向性	現状維持
二次評価での指摘事項	経年劣化による市営住宅の老朽化が著しく、限られた予算のなかでの維持管理に苦慮するところですが、緊急性や必要性等による個所付けを行い、計画的かつバランスのとれた適切な維持管理に努め、施設の長寿命化による管理コストの低減が重要です。課題である住宅使用料の徴収については、滞納整理を強化し収納率向上に努めてください。												